

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	大阪府
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

大阪市立大江小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18
児童数	51	59	69	58	61	54	6	358	

・実践研究の概要

1. 研究主題

自ら考え、判断し、行動する、心豊かな子どもの育成 基礎・基本を身につけさせるための個に応じた算数指導のあり方

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

・1年生～6年生算数 基礎・基本の積み重ねを重視する教科であり、子どもの学習習得状況に差が出やすく個に応じた指導が重要となる教科であるため。

(2) 年次計画

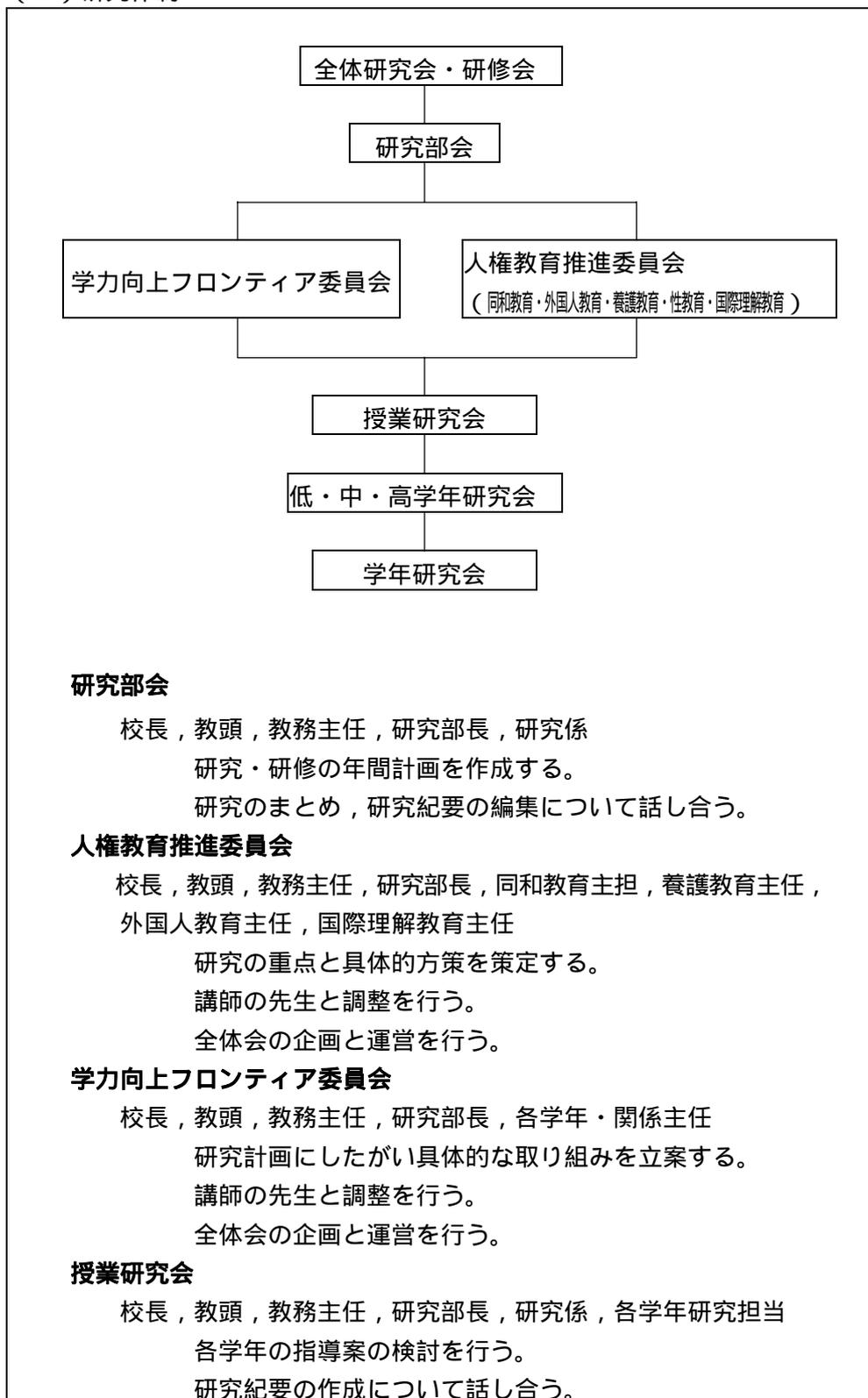
平成14年度	テーマ 自ら考え、自ら判断し、自ら行動する子どもの育成 基礎・基本を身につけさせるための 個に応じた算数指導のあり方 仮説 一人一人の子どもの実態をもとに個に応じた指導を充実させた授業実践を積み重ねていくことで、基礎・基本を確実に身につけさせ、確かな学力の向上を図ることができる。 研究内容・方法 課題を明確に持たせるための問題場面設定の工夫をする。 基礎・基本の定着と学力の向上をはかるための評価活動の工夫をする。
--------	--

平成15年度	テーマ 自ら考え、判断し、行動する、心豊かな子どもの育成 基礎・基本を確実に身につけさせ、 確かな学力の向上を図る算数指導のあり方 仮説 一人一人の子どもの実態を適切に評価し、個に応じた指導を充実させた授業実践を積み重ねていくことで、基礎・基本を確実に身につけさせ、
--------	--

	<p>確かな学力の向上を図ることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>評価カードを活用した評価の方法と個に応じた指導の工夫</p> <p>評価カードの評価問題を精選し、より活用しやすいものにする とともに、評価カードの効果的な活用の仕方を工夫する。</p> <p>個に応じた指導を効果的に行うための指導形態や支援の工夫</p> <p>指導形態については一斉指導に加え、チーム・ティーチングや 少人数指導、コース別指導などを単元の内容に合わせて計画的に取り 入れ、基礎・基本の確実な定着と、確かな学力の向上を図る。ま た各指導形態においての、個に応じたきめ細かな支援のあり方も工 夫していく。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 客観的な学力調査を計画的に行い、子どもの学力の伸びを把握 する。 ・ 算数タイムを設定したり、算数に関する教室掲示を工夫したり するなど、学校生活の中に算数を定着させる。 ・ 板書計画やノート指導などを工夫して、子どもが思考の流れを 整理しやすくしたり、以前の学習内容を振り返りやすくしたりす る。
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら考え、判断し、行動する、心豊かな子どもの育成</p> <p>基礎・基本を確実に身につけさせ、 確かな学力の向上を図る算数指導のあり方</p> <p>仮説</p> <p>一人一人の子どもの実態を適切に評価し、個に応じた指導を充実させ た授業実践を積み重ねていくことで、基礎・基本を確実に身につけさせ、確 かな学力の向上を図ることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>平成15年度の内容の引き継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間の研究のまとめ（研究紀要作成等） ・ 全国発表（公開授業） - 12月3日（金）の予定
--------	---

(3) 研究体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1．研究成果

評価カードの効果的な活用の工夫をすることにより，それぞれの子どもの学習に対する評価が確実にでき，理解が十分でない子どもには個別の指導を行うことができた。また，子どもにとって励みになり，「分かった」という成就感を持たせることができた。

個に応じた指導を効果的に行うために，チーム・ティーチング，少人数指導，コース別指導を単元の内容に合わせて計画的に取り入れたり，各指導形態における支援の工夫を行ったりした。その結果，子ども一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を行うことができた。

それぞれの指導形態で学習して，算数がよく分かるようになったか子どもたちへのアンケートをとった。その結果，「分かるようになった」という肯定的な意見がチーム・ティーチングでは約95%，少人数指導やコース別指導では，約98%得られた。また，子どもたちへ，それぞれの指導形態に対する感想も聞いたところ，「自分にあった勉強ができてよかった」や「算数が前より分かりやすくなった」などの肯定的な意見が多く聞かれ，学習に対する意欲も高まってきた。

2．今後の課題

評価カードをより活用しやすいものにししたり，効果的な活用の仕方をさらに工夫する等，評価カードによる評価活動と個に応じた指導を継続して研究・実践する。

チーム・ティーチング，少人数指導，コース別指導等様々な指導形態を実践し，それぞれの指導形態の特性や問題点を整理するとともに，子ども一人一人に合ったきめ細かな指導や支援のさらなる充実をめざす。

特にコース別指導については，単元末の発展的な学習や補充的な学習に分かれた指導に重点を置いて実践を進める。また発展的な学習や補充的な学習の教材開発にも取り組んでいく。

・学力把握のための学校の取り組みについて

大阪市小学校教育研究会算数部作成の「算数のしんだん」の毎年実施。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

- ・「大阪市教育改革フォーラム2003」において本校の取り組みを発表
- ・各都道府県市町村の教育視察等を受け入れ，本校の研究を積極的に公開
- ・本校ホームページでフロンティアスクールとしての取り組み概要を掲載
- ・研究紀要の配布

【新規校・継続校】	14年度からの継続校
【学校規模】	13～18学級
【指導体制】	少人数指導， T・Tによる指導
【研究教科】	算数
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	無